

美歴だより

諫早市美術・歴史館だより

CONTENTS

館長のつぶやき	2
BIREKI・レポート	3
いさはやの民謡	4
いさはやの歴史	5
美術の部屋	6
古文書の部屋	7
お知らせ	8

Isahaya
Museum of
Art & History
Museum News
Vol.15



美歴を彩る「いけばな」

館長のつづやき

調査のおずかしさ

▼昔から「うわさ」という何とも得体の知れないものがある。広辞苑では「世間で根拠もなく言いふらす話」と説明しているが、これが案外無視できない“化けもの”なのかも知れない。

▼洋の東西を問わず、「うわさ」は戦略の一つでもある。デマも同類項なのだろうか。敵を混乱させ、勝利を勝ち取る、この「うわさ」は、今日の日本語に翻訳？するならば、情報ということになるのだろうか。いやちょっと違う。情報というのは本来知識の一形態であったはずだ。ところが情報という言葉さえ、意味合いが拡大している。我々のようなおじいさんは、情報は頑張って手に入れるものだと思われてきた。しかし、今日では玉石混交ならぬ嘘・虚偽の情報も勝手に飛び込んでくる。どれが「本当」なのか。飛び込んできた情報を「信じる、信じないはあなたの勝手よ！」と言われてしまえば二の句が出なくなってしまうが、新型の情報の渦・嵐にどう対処したらよいかは自己鍛錬しかないのかもしれない。



(左の写真、何か違う？、ハウステンボス内の「トリックアート」)

▼ところで、「知りたいことを知る」ためには、やはり自ら行動を起こさない限り得ることができないのは自明のことであるが、近年気になりだしたことがある。テレビ等での番組でく

これ、知ってますか！>とかくこういうの、気になりませんか！>など、無意識のうちに関心を引き起こされてしまうものがある。気が付くと「へー、そうだったんだ！」などと一種の「雑学」が記憶の隅に、いや中央部に入り込んでくる。<今でしょう>で有名になった林修氏の番組「初耳学」、草野仁の「世界ふしぎ発見」「池上彰 そうだったのか」NHKの「チコちゃんに叱られる」などはその好例かも知れない。

▼それはさておき、館長講座用の資料集めにあちこち取材に行くが、その事物の根源というか「根っこ」を知る難しさを実感する。とりわけマイナーな事象では、伝聞推定が多く、結局<〇〇らしいよ>、<誰々さんが言ってたもん>などの情報に終始する 경우가少なくない。例えば、諫早の代表的民謡「のんのこ節」についても、“のんのこ”という囃子言葉を「かわいい」などと説明する人がいる。民謡の囃子言葉、合いの手、掛け声には特別の意味があるわけではない。いつ、誰がそのようなウソを振り撒いたのだろうか。真しやかに流布することに怖さを感じる。研究者と言わず、行政マンなどは仕事柄事実確認作業が必須である。当たり前のことながら、確認・調査をするということは、記録することである。昔は録音機とか写真機が十分利用できなかったため、只管ペンで、筆で、絵の具で記録し、模写した。書くという感覚が脳にしみ込んで記憶となった。でも老化には勝てない。しつこく聞き出すという体力・気力が薄れている。困ったもんだ。

BIREKI・レポート

Vol.6 諫早歴史クイズ & 年間スケジュールができました！



Q. 昔、眼鏡橋がかかっていた川の名前は？

かっちゅう

Q. 展示している甲冑の重さは何kg？

Q. 鎌倉時代は「諫早」ではなく漢字3文字で

「〇〇〇」と書いていた？ などなど…

諫早のことにもっと詳しくなれる！そんなクイズが出来ました！

難易度は 【☆☆☆】（小学生向け）と 【★★☆】（中学生向け）

に分かれています。大人の方も十分楽しめる内容になっています。

常設展を見学しながらクイズを解いて勉強したり、学校の社会科学習や、夏休みの自由研究のきっかけにもなりますので、沢山の方にご活用いただければと思います。

館の受付横に置いてあります。ご自由にお取りください。→



2018年度の年間スケジュールを作成しました。

館の企画展や、催し、ツアーや講座などの内容・日程も記載しています。夏休み中も企画展を行いますので夏休みの思い出作りにいかがですか😊？

館ホームページからもご覧いただけます。



美歴Instagramでは館の催しものや

資料の紹介などを行っています！

ぜひチェックしてみてくださいね！



@i_love_bireki

諫早市美術・歴史館



いさはやの生活

VOL.2 シロワケとカンダラ

社会生活にはいろいろな決まり事や慣行がありますが、今回は漁村での漁獲物に関する慣行を紹介します。

「シロワケ」と「カンダラ」、ともに漁村で行われていた慣行です。

自給自足の暮らしの時代、シロワケは漁獲物を分配することを言いました。シロは分配する際の単位、いわば分け前のことです。この慣行では漁に従事した者で分配するというのが多く、このときは網代などの必要経費も一人前として数に入れ、それを負担した者も取り分としていました。また、村共有の船や漁具での漁では人や戸を単位として集落全体に分配するなど、シロワケにはその土地土地でのやり方がありました。このシロワケは全国に通じる言い方で、つまり全国でみられた慣行でした。

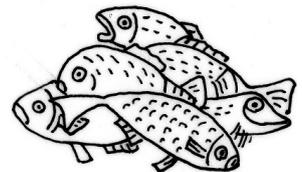
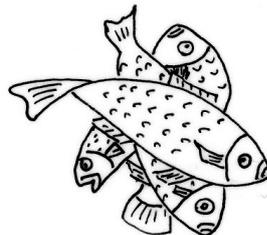
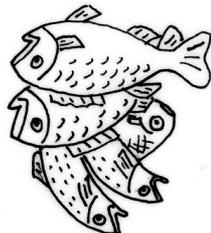
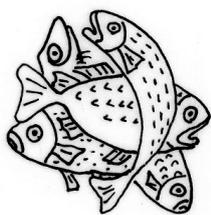
シロワケは、時代とともにやり方も変わってきましたが、こうした漁獲物での伝統的な分配が長い間続いてきました。しかし、貨幣経済となると次第に賃金での分配へと変わっていききました。

一方カンダラは盗み魚のことで、漁獲物をくすねることをいいます。

カンダラは西日本での言い方で、東日本ではドウシンボウなどと言っていました。漁獲物をくすねるのでから親方や仲間に見つからないように行っていたわけです。

もともとカンダラはおかずとりでしたが、シロワケで得る分のほかカンダラで得た漁獲物が漁師にとって収入源になると、鯛などの高級魚や依頼のあった魚を見つからないように船の隅あたりに隠し、後からそれを売りに行っていました。親方に見つかりと取り上げられていたものです。

漁業は天候などに左右され収入が不安定で当たり外れがあります。そうした中、おかずりのカンダラは黙認されていたのですが、頻繁に行われると経営する側も見過ごすことができなくなり、監視するようになります。カンダラは親方と網子の勝負みたいなものともなっていました。こうした、表向きのシロワケ、隠れてのカンダラと言った慣行も漁業の大型化、遠洋漁業の活発化に伴い見られなくなり、シロワケ、カンダラという言葉は人々の口の上からはなくなっていきました。



いさはやの歴史 高城の史跡 Vol.5

ちゅうこんひ ごたいてんきねんじぎょうきふしゃほうめいとう 忠魂碑・御大典記念事業寄附者芳名塔

高城中腹に古賀篤介先生頌徳碑と木下吉之丞銅像木下吉之丞（きちのじょう）翁銅像との間に「御大典記念事業寄附者芳名」と正面に刻まれた六角柱の塔があります。御大典とは天皇の即位の行事であり、これは昭和3年（1928）に昭和天皇が即位された際に、御大典記念として、高城の頂上にある忠魂碑を造る際の寄附金と氏名が刻まれています。また、頂上にある「忠魂」と刻まれた忠魂碑は東郷平八郎による揮毫（きごう）で基壇部分に忠魂碑が建立された経緯が刻まれています。



御大典記念事業寄附者芳名



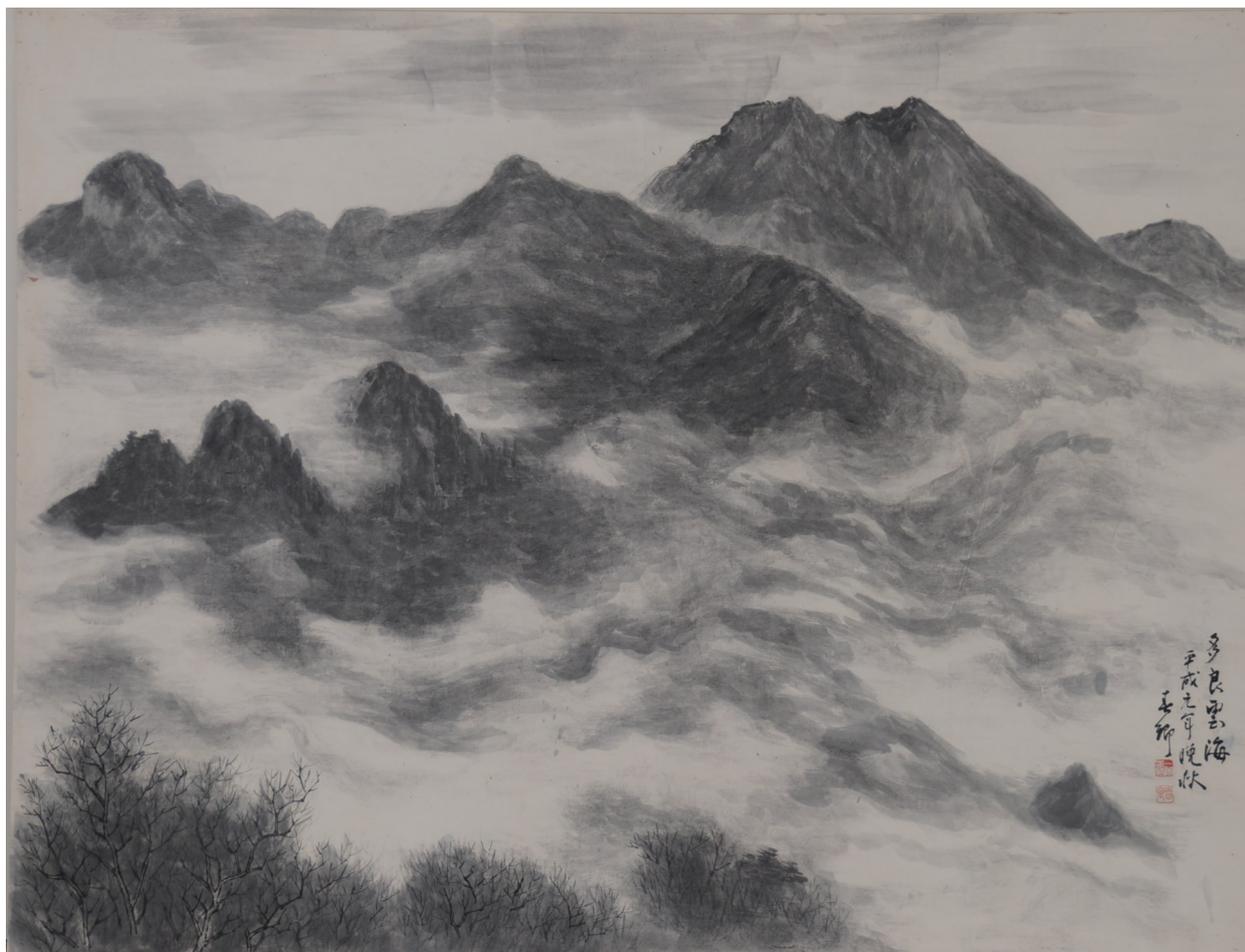
忠魂
元帥伯爵東郷平八郎書
花押

國家有事 義憤所激 奮捧身命 精
忠貫日星 義烈滿乾坤 皇威震八紘
國光輝萬邦 誰不欽仰殉國諸士之
遺烈哉 茲遭昭和之大典 北高來郡
町村長及郡民相謀 建設戊辰後戰傷
病死軍人諸士之忠魂碑 以記念大典
長欲使後昆知國家興隆之所由 嗚
呼人誰無死 死而享國家之祭祀 受
國民之景慕 諸士之榮亦大矣 冀長
鼓舞士氣 以護持無窮之國運

Vol.5

美術の部屋

一瀬春郷



《多良雲海》1989年 910×1170mm 諫早市美術・歴史館蔵

一瀬春郷（いちのせ しゅんごう） 1906-2000年（明治39年～平成12年）

本名春駒。明治39年大村市生まれ。長崎医科大学卒業と同時に海軍軍医となり、終戦後は諫早で内科を開業しました。診察中の子どもを厳しく諭す反面、治療が終わるとご褒美として飴を与えるなど、温かな人柄から多くの患者に慕われる存在となりました。

軍医時代に佐世保で池部光倫を知り、南画の手ほどきを受けましたが、戦況の影響により一時中断し、昭和21年に大村に戻ると本格的に南画を再開しました。昭和33年に長崎県展知事賞を受賞。同年、諫早墨影会を組織し、会長に就任した後は、自身の研究の傍ら、後進の指導にもあたりました。その他にも諫早文化協会副会長、長崎県美術協会名誉会員、諫早市美術協会会長、日本南画院理事等を務め、南画の発展と諫早の文化向上に大きな功績を残しました。

古文書の部屋

古文書の書き出しと文末表現

古文書の文章は、書き出しの文言とそれに対応する本文の末尾に書く表現が定型化しているものがあります。それらの文言の言い回しを覚えておくと、文書全体の趣旨を類推して読み進めることができます。とくに文末表現のことを「**書き止め文言**(かきとめもんごん)」といい、一部は現在も使われている表現を含みます。ここでは書き出しと文末表現の例をいくつかご紹介します。

① 書き出しの表現

～之事：～のこと

・ 送り一札之事 ・ 由緒手形之事 ・ 金子証文之事 …など

乍恐～：おそれながら～

・ 乍恐以書付奉願上候（恐れながら、書付をもって願い上げたてまつります。）

その他

・ 覚：おぼえ ・ 條々：じょうじょう ・ 写：うつし ・ 拜啓：はいけい …など

② 文末の表現(書き止め文言)

～、以上（已上）

・ ～奉申上候以上（～申し上げたてまつります。以上です。）
・ 難有仕合奉存候以上（有り難き幸せに存知たてまつります。以上です。）…など

～、仍如件：～、よってくだんのごとし

・ 為後日仍如件（後日のため、そのようにするよう。）
・ 仍執達如件：^{しったつ}（ご下命をそのように下すよう。） …など

その他

・ 恐々(恐惶)謹言：きょうきょう(きょうこう)きんげん ※
（恐れながら謹んで申し上げます。）
・ ～者也：(～する)ものなり …など

参考

※文書の書き出し・書き止め・日付・宛書・敬語などを含む、手紙の書き方や形式についての約束事を**書札礼**(しょさつれい)といいます。平安時代以降、手紙の差出人と受取人とを身分の違いによって区別するために用いられました。「恐惶謹言」は高い身分の人物に向けて用いられることから、それが現代でも名残で同じように使用されています。

お知らせ

発行日：平成30年7月

館企画展

草場道輝原画展



諫早出身の漫画家・草場道輝の代表作である本格派サッカー漫画「ファンタジスタ」の原画を中心に、現在、週刊少年サンデーで連載中の長崎を舞台とした海洋浪漫キャンパスデイズ「第九の波濤」を交え、草場ワールドを紹介します。

期間／7月14日(土)～8月15日(水)※火曜休館
午前10時～午後7時※最終入場18:30
会場／2階企画展示室 観覧料／無料

//////////////// コラボ企画 //////////////////

V・ファーレン長崎展

J1元年となる今シーズン、J1の舞台で躍動する選手たちの写真などを紹介します。

期間／7月28日(土)～8月24日(金)※火曜休館
午前10時～午後7時※最終入場18:30
会場／1階ホール 観覧料／無料

館講座

館長講座

日時／8月4日(土)
午前10時30分～12時



会場／2階研修室
内容／諫早の奉仕団体の活躍
講師／鈴木 勇次
その他／受講料無料、事前の申し込み不要

館企画展

諫早大水害展



昭和32年7月25日、諫早と周辺地域に甚大な被害をもたらした「諫早大水害」。その惨状と復興に向けた市民の歩みを振り返ります。

期間／7月1日(日)～7月25日(水)※火曜休館
午前10時～午後7時※最終入場18:30
会場／1階ホール 観覧料／無料

編集後記

年を重ねると趣味嗜好が変わるといいますが、最近ではまさしくそのとおりで。

若いころは見向きもしなかった花や植物を愛でるようになり、ふと気づけば、何が美味しいのかと思っていた「煮しめ」や「酢漬け」を好むようになっていました。

ところで、

美術・歴史館のエントランスホールには、四季折々の草花や花木を使った「いけばな」が飾られています。

これは、「諫早いけばな連盟」の皆さんのご協力によるもので、開館当初からずっと続いているものです。

春の芽生え、夏の繁茂、秋の彩り、冬の枯枝…

忙しい日常の中にあらためて四季を感じ、いつもホッコリと心と癒されています。

表紙では、一部の写真を紹介しましたが、館内ではすべての作品をアルバムで、また、美術・歴史館のホームページでは昨年からの作品を見ることが出来ます。(スマホなどで「いけばなギャラリー」とググればすぐにとどりに着くことができます。)

癒しのおすすそ分け。

ぜひ一度ご覧になってみてください。(編集が終わってホッ。今日の晩ご飯はアジの三杯酢)

(山本真)